

令和3年11月22日

松阪市議会議長 堀端脩様

海住恒幸

財政分析、財政運営、財政計画についての研修（リモート開催・在宅受講）に参加しましたのでご報告します。

研修名 TRC 自治体政策研究会主催「コロナ後の中期的財政運営と財政計画の視点」  
(11月分・全2回)

講師 宮脇淳氏（北海道大学公共政策大学院教授・元参議院事務局）

日時 第1回 2021年11月9日  
第2回 11月16日

両日とも、午後1時から午後3時までリモートで開催され、自宅にて受講しました。

10月に2回受講した研修と同じ講師により、11月分は財政計画に重点を置いた2回連続講座となっています。2回を通じ、中長期的な視点に立った分析に基づく議論を行わなければ、財政が健全かどうかを見ることはできないという考えに立って、財政推計・財政計画に対する捉え方を学ぶ内容となっていました。

#### 【第1回・11月9日】

##### 1、財政推計と財政計画ほか

###### ・財政推計

10月の講座で学んだ財政分析の方法を基にした財政シミュレーションである財政推計を示すことができる。財政推計とは自治体によって、中長期の「財政見通し」と呼ばれることもある。松阪市の場合は「財政見通し」とよんでいる。

しかし、財政推計の中身自体を議論することはまったく意味を持たないと講師は言う。なぜならば、財政推計は現在の財政分析をベースに一定の「前提条件」を設けた中長期の予測（財政状況の変化）を「仮想事例」として想定するものだからである。設定された「前提条件」の部分を議論できない以上、将来財政の見通しとして信頼できるか信頼できないかの意味すら持たないとのことだ。

###### ・財政計画

財政推計ではなく、財政計画と呼ばれるものを作るべきであるが、自治体によって作られて財政計画と呼ばれているものの多くは財政推計に過ぎないという実態もある。財政計画と呼ぶにふさわしいものであるためには、既存政策の変更や新規の政策実施によって中期

的な財政運営に影響を与える影響（インパクト）と、それによる財政収支の乖離（ギャップ）を組み込んだものであるべき。影響と乖離の分析をインパクト分析とギャップ分析と呼ぶ。

例を挙げると、駅前の再開発を行う場合（with-in）と行わない場合（with-out）の財政比較であり、その影響度合いを分析することをギャップ分析といい、そのギャップを明確にしなければならない。

・ 財政計画への KPI 設定について

目標値の設定のことであるが、財政健全化指標は不適切。財政健全化指標は、いわば、病気になってしまったレベルを示すものなので、病気にならないうちに体質改善を図れる段階の財政状態の変化を示す数値としなければならない。

【第2回・11月16日】

財政計画に基づいた総合計画を策定していくことを視野に置いて、議会で議論しておくべきことを明らかにしておくことを主眼としたと考えられる。

財政計画の枠組みでもっとも力点を置かれたところは、歳入歳出見通しにおいて、収支を均衡させないことである。歳出額が歳入額を上回る額を「要調整額」として明示しておき、どのような政策的インパクト（施策の変更や歳入努力等々）を加え、調整額を小さくしていくことを考えていくべきとしている。

【所感】

1 回目を受けて 2 回目という構成であるので 2 回分を一括しての記述となることをご了承くださいたく思います。

わたしは、中期財政見通しのあり方について、議会質疑をしたことがありますが、「見通し」そのものが財政実態にそぐわない「前提」条件のもとに設定されたものである以上、議論そのものが無意味であるということになります。今回の講座の内容は財政の理論的枠組みを捉えようとするもので、自治体財政の見方、分析をする上で直ちに有効なものではないかもしれませんが、今後、絶えず参考にすべき基本的視点としていかなければならないと思います。

以上